

だいじなことを知らせ合おう（2年）

たからものを知らせ合おう

きき方名人になろう 手紙で知らせ合おう

● 指導目標

自分の宝物について話したり書いたりして伝え合う。

- 知らせたい事を選び，事柄の順序を考えながら，相手に分かるように話す。
- 大事な事を落とさないようにしながら，興味をもって聞いたり尋ねたりする。

● 教材について

本材は，1年生で学習する「自己紹介をしよう」を受け，3年生の少人数の話し合いへとつながる学習である。

2年生は，一年間，学校で学んできたことで言葉や知識が増えている。同時に幼児性も併せもっているので，「先生，あのね。」というような，自分のことをたくさん人に教えたいという意欲も高い。あれこれ考えたり，書いたりした後で話すよりも，思いつくまま，考えつくままにどんどん話したいと思う学年である。

話すこと・聞くことの学習 きき方名人になろう では，一対一の対話を学習する。学年が進むにつれて重要となる，聞いてたずねるという双方向的な活動は，話し合いやディベートやパネルディスカッションなど，各種発表の基礎となる。似たような活動は，日常的になにげなくされてきていることではあるが，丁寧に，そして十分時間をかけて経験を積まなければ，その力を十分身につけさせることはできない。

【対話の導入としての手だて・えんぴつトーク】

まず，対話を学習するにあたってえんぴつトーク（筆談）を経験させる。子供たちは，二人一組になり，身近でだれもが思いや考えをもてる話題（例えば，昨日見たテレビ番組についての感想，ドッジボールの試合についての感想など。）についてえんぴつトークをする。えんぴつでかわるがわる書くので，どちらが最初に書くか決める必要はあるが，最初の子供が書いた話題について，相手の子供も自然にその話題に返事を書き，話が進んでいく。書くという活動があることで考える時間ができ，話すことが少し苦手な子供であっても，話題にそって話を展開させていくことができる点が，えんぴつトークのよさである。さらに，えんぴつトークでは対話をするうえで重要となる，「うん，うん。」「そうだね。」といううなずきの言葉や，「ところで」「話は変わるけれど」などという話題転換のつなぎ言葉が，自然と出てくる。対話にはそれらの言葉が，大事なことだと子供たち自身が気づきやすいところも，対話の学習の導入として適している。

対話の導入となるこの時期には，「最後まで聞く」という意欲面，「大事なことを，落とさないように聞く」という技術面の他に，対話をする自分のこともわかってもらえる，相手のことも知ることができて気持ちがいい，というような心情面からも，気づきを拾い上げ，丁寧に学習を進めていくことが大切である。

【えんぴつトーク・対話と，手紙との関連】

書くことの学習 手紙で知らせよう では，上記のえんぴつトークで書いた文や対話の内容と関連させながら学習を進める。そうすることで，手紙は対話のように自分のことを知らせたり，相手にたずねるようにすれば，上手に書けるということを知る。そして，手紙のよさについて考えさせたいうえで手紙を書く。対話を学習した後では，子供たちから自然と，もらった手紙に返事を書きたいと思うことが予想され，その意欲を大切にさせながら，手紙をすすんで書きたいと思うような場の設定の工夫も必要となるであろう。

● 学習指導計画（13時間）

第3時（本時）・4時（本時）・8時（本時）

展開	時	過程	学習活動	○留意点・【評価規準】
第一次	第1時	見通しをもつ	○ 単元扉をもとに単元全体の見通しをもつ。 ・ きき方名人になろう ・ 手紙で知らせよう ○ 新出，前学年漢字を学習する。	○ どんな手紙を書いたり，もらったりしたことがあるか体験を発表させる。 関：単元全体に関心を示し，学習意欲をもっている。 ○ 漢字の確認や学習を行う。
	第2～4時	表現する	○ 教材を読み，二人で行う対話の流れをつかみ，どのようにすれば聞き方（たずね方）名人になれるのか話し合う。 ○ 決めたテーマについてえんぴつトークやバトントークをする。 ○ 「聞き方名人」になるにはどんなことに気をつけたらいいかまとめる。 ・ 最後まで聞く ・ 大事なことを，落とさないように聞く。	○ 言葉遣いや表情などについても考えさせる。 話・聞：身近な事柄について，話題に沿って二人で話し合っている。 ○ 「最後まで」「大事なこと」を聞くことをバトントークで意識させる。 ○ 言葉づかいや話し方，聞き方，表情などお互いに気持ちよく対話するために必要なことも付け加えさせ，教室内に掲示し，意識の継続を図る。
	第5～7時	表現を高める	○ 持ち寄った大切なものについて二人でたずね合い，対話をする。 ○ 上手に続いた対話について，いいところや感想を出し合う。	話・聞：大切な物について対話を続けている。 【言】姿勢や口形などに注意して話している。
第二次	第8～9時	見通しをもつ	○ 手紙によさについて考える。 ○ 手紙の書き方を知る。 相手の名前，聞きたいこと，自分の気持ち，自分の名前の書き方を知る。	○ 教材の手紙が対話の内容がもとになっていることに気づかせ，書き方のポイントをとらえさせる。 ○ 教科書の伊藤さんの手紙を読んで気がついたことを出し合わせる。
	第10～11時	表現する	○ 相手を意識して内容を考え，手紙を書く。 ○ 手紙を渡し合って読み合い，よいところを知る。	書：自分の伝えたいことをはっきりさせてわかりやすい文を書いている。 ○ 簡易ポストをつくり，郵便配達ごっこをさせながら意欲を高める。
	第12～13時	表現を高める	○ もらった手紙に返事を書く。 ○ 手紙のよさについて自分なりに考えをまとめる。	○ 聞かれたことに答えること，思ったことや考えたことを返事として，どう自分のことを書くか考えさせる。

● 本時の展開 (本時 3 / 1 3)

目標

- ・教材文を読んだり，えんぴつトークを通して対話の流れを知り，話を続けることができる。

● 展開例

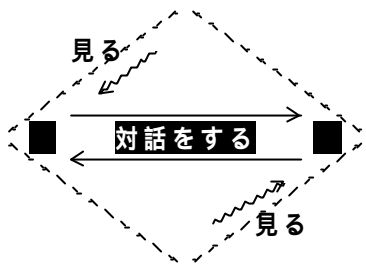
学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1 学習課題を確認する。		
2 教材（P 63）を読む。 二人一組になって、たからものを知らせ合うことを知る。 ・いつ、どこで、だれに、なぜ、どこに、どのようにして、などをたずねる。	たのしく わかるように 話をつづけよう ・二人一組みに分かれて役割読みをさせる。 ・自分のたからものをお互いに教え合うことを知らせる。 ・対話の相手にどんなことをたずねればいいのかをまとめる。 ・いつ ・なぜ ・どこで ・どこに ・だれに ・どのようにして ・身近な話題（昨日見たテレビ番組や体育の時間に行ったドッジボールの試合、夏休みの思い出など）について、感想を筆談させる。 ・話をさいごまで聞く ・だいじなことをおとさないように聞く ・わかったことをくりかえしたり、うなずきながら、聞く	関：対話の内容を考えている。（態度） 話聞：どんなことを尋ねればいいのか考えている。（態度、発言） ○質問をする言葉に着目させて、何を聞いているのかを考えさせる。
3 えんぴつトーク（筆談）をして特長を考える。 ・最後までしっかり言わないと（書かないと）わからない。 ・かわるがわる話したり、聞いたたりして話が続いている ・「うんうん」とか「そうだね」などの言葉がある ・「ところで」とか「話が変わるけど」などの言葉がある。		関：見たこと・感じたことなどを書いている。（ノート） 話聞：たずねることを考えながら対話に生かしている。（発言）
4 夏休みの思い出について対話をする。	・相手をかえて夏休みの思い出について対話をする。 ・対話の様子をビデオに撮影しておき、評価や子供たち自身の振り返りの資料とする。 ・ふりかえりカードに自己評価をし、感想をまとめる。	関：二人で行う対話の流れをつかんでいる。 話聞：対話について考え、留意点をまとめている。（発言・ノート） ○読み返したり、声に出すことにおいて大切なことを考えさせる。
5 ふりかえりカードを書く		関：思い出について話そうとしている。（態度） 話聞：夏休みの思い出の中で知らせたいことを選び、相手にわかるように話し、また相手の話を聞いている。（発言） 関：対話の様子を思い出して自己評価している。（ノート）

● 本時の展開 (本時 4 / 13)

目 標

- ・ 楽しく話を続けたり，もっと知りたいことを尋ね合ったりすることができる。

● 展開例

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1 学習課題を確認する。 たのしくわかるように話をつづけよう		
2 対話をする。 	・ 4 人一組になり，自分の宝物について対話をする。 (対話)・・・ と (見る)・・・ と	関：自分の宝物について話そうとしている。(態度) 話聞：相手にわかるように話し，また，相手の話を聞いている。(発言) 言語：姿勢や口形などに注意して話している。(発言)
3 それぞれカードを書く	(ふりかえりカード) と (おしえるよカード) と	関：対話の様子を思い出して自己評価，相互評価をしている。(ノート)
4 対話，見る役を入れ替えてもう一度行う。		

● 本時の展開

目 標

- ・ 対話の内容を文字で読んでみることにより，教材の手紙は対話の内容がもとになっていることに気づき，手紙の書き方のポイントをとらえることができる。

● 展開例 (本時 8 / 13)

学習活動	指導上の留意点	評価・支援
1 学習課題を確認する。 対話と手紙を比べよう えんぴつトークノートと教材 P 66 を比べて，感想や思ったことを発表する。	・ えんぴつトークノートの自分で書いた部分にだけ着目させ，比較させる。 .	
2 手紙の書き方を知り，下書きを書く。	・ 自分のことを書いて，聞きたいことをたずねる。 ・ はじめにに相手の名前，最後に自分の名前を書く。	書：自分の宝物について，自分が知らせたいことを書いている。 (ノート) 書：だれに何を伝えるのかを考えて書いている。 (ノート)

ふりかえりカード

名前

できたところを。でかこみましょう。

あいてを見て	聞きました	話しました
うなずいたり，あいづちをうって	聞きました	
だいじなことをおとさないように	聞きました	話しました
もっと知りたいことを	たずねました	
たのしみながら	聞きました	話しました

かんそう

おしえるよカード

名前

から

名前

さんへ

聞きました

できたところ。でかこんであげましょう。

ぼく，わたしを見て	聞いてほしい	話してほしい
うなずいたり，あいづちをうって	聞いてほしい	
だいじなことをおとさないように	聞いてほしい	話してほしい
もっと知りたいことを	たずねていました	
たのしみながら	聞いてほしい	話してほしい